令和５年度 文部科学省科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）

NEWS LETTER

武庫川女子大学
女性研究リーダー育成推進センター

vol.3
2025.3

MESSAGE

副学長
郡　千寿子

本学は、令和5年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）」に選定され、今春3年目を迎えます。現在、「女子総合大学における挑戦的次世代女性リーダー育成プログラム」の様々な取組が本格的に稼働し、若手女性研究者の裾野拡大や上位職登用などを実現する先駆的モデルプログラムとなるよう、全学あげて推進しているところです。

日本は、ジェンダーギャップ指数が146ケ国中118位と依然として低く、主要先進国（G7）の中では最下位のままです。ノーベル賞の女性の受賞者数は、全体の5%で、自然科学部門の女性受賞割合は更に低く、2%（延べ12名、実数11名）です。一人ひとりが資質や能力を生かし、誰もが輝ける社会の実現のために本プログラムは重要で必要な取組です。どうか今後もご理解とご支援をお願い申し上げます。

第2回シンポジウムを開催しました

◆テーマ：「女性研究者の研究力強化とリーダー育成」

日時　2025年2月21日（金）13:30～15:30

場所　本学中央キャンパス　日下記念マルチメディア館　メディアホール

対象　本学関係者・一般

内容

開会挨拶　▶学長／女性研究リーダー育成推進センター長　瀬口　和義

基調講演　▶「世界初！超簡単な脳波計測による感情のリアルタイム計測装置の開発と近未来テクノロジー」
慶應義塾大学理工学部教授／医学部精神神経科学教室兼担教授　満倉　靖恵　氏

令和6年度　活動報告　▶副センター長　高橋　享子

令和6年度　武庫川女子大学　架橋横断的重点共同研究・グローバル共同研究　報告

▶「難治性乳がん悪性化の機序解明と新治療戦略の創出」
薬学部健康生命薬科学科　教授　中瀬　朋夏

▶「外国にルーツを持つ児童・生徒の学習意欲に関する社会福祉学的研究」
心理・社会福祉学部社会福祉学科　講師　野上　恵美

▶「多分野介入による認知症予防教室における音楽活動の有効性」
音楽学部応用音楽学科　教授　一ノ瀬　智子

閉会挨拶　▶副学長／副センター長　高橋　享子

瀬口　和義　学長

満倉　靖恵　氏

高橋　享子　副学長

中瀬　朋夏　教授

野上　恵美　講師

一ノ瀬　智子　教授

第2回シンポジウムを開催しました

2025年2月21日（金）、中央キャンパスの日下記念マルチメディア館メディアホールにて、女子総合大学における挑戦的次世代女性リーダー育成プログラム第2回シンポジウムを開催しました。テーマは「女性研究者の研究力強化とリーダー育成」、遠方の大学関係者にも足を運んでいただき、学内外から約140名の方にご参加いただきました。

開会にあたり瀬口和義学長より、「このプログラムに私立の女子大で唯一採択されたことは、女子総合大学に女性リーダー輩出を託す期待の表れであり、本学では、期待以上の成果を出せるよう様々な事業に取組んでいる」と挨拶がありました。

基調講演では、「世界初！超簡単な脳波計測による感情のリアルタイム計測装置の開発と近未来テクノロジー」と題し、慶應義塾大学理工学部教授・医学部精神神経科学教室兼担教授の満倉靖恵氏が登壇。自身の研究内容を紹介するとともに、研究成果を社会に生かす自らのリーダーシップについても語っていただきました。

高橋享子副センター長からは、今年度行ってきた様々な活動について報告。「武庫川女子大学 サイエンス・コモンズ」を拠点とし、各種研修や国際共同研究支援等を通じて、女性リーダー育成をより促進していくと説明がありました。

続いて、令和6年度武庫川女子大学架橋横断的重点共同研究・グローバル共同研究支援採択者の中から、中瀬朋夏教授（健康生命薬科学科）、野上恵美講師（社会福祉学科）、一ノ瀬智子教授（応用音楽学科）の3名が研究発表を行いました。

シンポジウムの参加者からは、「満倉氏の講演が大変素晴らしく、研究者としてのバイタリティ、熱量、そして物事の考え方に感銘を受けました」「共同研究、連携の重要性をより感じました」「女性はライフステージによって、研究を続けることに困難な場面があると思いますが、本学のように共同研究への支援があることで、継続し、実績をあげ、リーダーになっていくことが出来ると思いました」「大学全体で教職員一体となったリーダー育成を行うという雰囲気の醸成や、強い女性リーダー像を身近に感じられる環境を作ることが必要だと思います」といった多くの感想が寄せられました。

サイエンス・コモンズ セミナー

2024年6月より月に1回程度、「サイエンス・コモンズ セミナー」を開催しました。研究者のプレゼンテーションを通じて、参加者の分野を越えた研究交流や分野架橋の共同研究につながることを目指して企画しています。中央キャンパスに開設した「武庫川女子大学 サイエンス・コモンズ」にて、17：30～19：30の時間で実施しました。参加費は無料で、他大学も含めた大学・企業等で研究に関わる方・興味のある方であれば誰でも参加でき、オンライン受講（Zoom）も可能なセミナーです。

■開催報告

【第4回】2024年10月30日(水)「治らない病気から治る病気へ 乳がん治療への新たな挑戦と課題」
健康生命薬科学科 中瀬朋夏 教授

【第5回】2024年11月27日(水)「大学と自治体による共同研究―保健師の経験知からの理論知を広く実践に活かすために―」
看護学科 松井菜摘 講師／大阪市旭区役所 保健副主幹 尾原ゆり子 氏

【第6回】2025年 1月29日(水)「戦争の記憶と文学のことば」 日本語日本文学科 小泉京美 講師

【第7回】2025年 2月26日(水)「高齢期における感情と意思決定」 心理学科 太子のぞみ 講師

参加した学内外の研究者や大学院生からは、「分野は違いますが、共同研究の可能性や、プレゼンテーションの方法など学ぶことがたくさんあり、有意義な時間でした」「研究はもちろん、私生活にも関わりのある内容で、重要な示唆をいただきました」などの声がありました。

来年度も引き続きサイエンス・コモンズ セミナーを企画しています。今年度以上に本学の研究をPRし、共同研究が創出されるセミナーを目指します。2025年度のサイエンス・コモンズ セミナーの開催については、「武庫川女子大学 サイエンス・コモンズ」のホームページに随時掲載します。ぜひご活用ください。

MUKOJO研究ポットラック

「研究者がそれぞれの研究シーズを持ち寄り、ディスカッションをとおして仲間をみつけ、研究を共有し、新しい研究を育てる」というコンセプトのもと、サイエンス・コモンズにて定期的に開催しているイベントです。話題提供者の研究内容からテーマを設定する回や過去に開催したテーマを再度掲げ、さらに深堀りしていく回など、多岐に及ぶ内容で実施しています。各回とも様々な分野の教職員、大学院生がそれぞれの立場からの知見を出し合うことで、新たな研究に関するアイデアが創出される場になっています。

■開催報告

【第4回】2024年10月29日（火）「身体機能とQOL」
話題提供：健康・スポーツ科学科 安田良子 准教授／心理学科 太子のぞみ 講師
【第5回】2024年12月19日（木）「フェムテックについてもっと考えよう」
ファシリテーター：建築学科 宇野朋子 准教授
【第6回】2025年 1月27日（月）「研究資料アーカイブズ、地域史、地域資料保存、鳴尾、文化財」
話題提供：歴史文化学科 河野未央 准教授／建築学科 宇野朋子 准教授

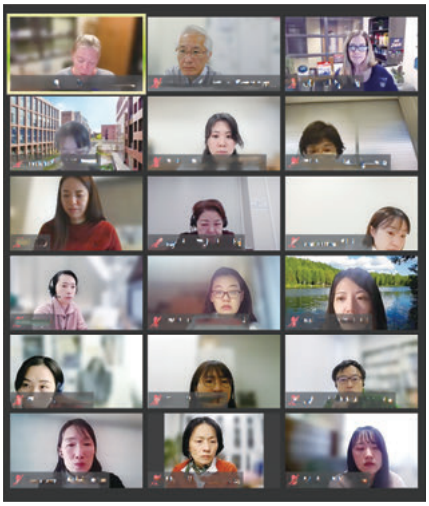
来年度も引き続きMUKOJO研究ポットラックを開催します。この取組から、総合大学である強みをいかした新たな研究が生まれることをご期待ください。

アメリカ ゴンザガ大学による女性リーダーシップ研修

2024年9月21日（土）にスタートした本学協定校ゴンザガ大学（米国ワシントン州）による「女性リーダーシップ研修～みとめあう職場文化をつくる～」の全6回の研修が、12月7日（土）に無事終了しました。ゴンザガ大学リーダーシップ学部の教授2名とZoomで中継を結び、英語での講義やグループワークに、本学の研究者、大学院生20名が取組みました。

12月14日（土）に、本研修の振り返りのための意見交換会を中尾賀要子准教授（教育総合研究所）のファシリテートのもとで行いました。参加者からは、「女性らしく活躍すること、その困難を乗り越える方法などを学べた」「リーダーとしてのふるまい、人を巻き込む力を身に付けたい」「クリフトンストレングス・テスト（旧クリフトンストレングス・ファインダー・テスト）を通じて自分の強みを見つめ直せた」などの声がありました。

職場における多様性に目を向けてコミュニケーション、チームワーク、創造性、感性を高めることを学ぶことができた本研修は、多くの示唆に富むもので、参加者の今後に大きな影響を与えたと同時に、「女子総合大学における挑戦的次世代女性リーダー育成プログラム」を進める上で実りある研修となりました。



女性研究リーダー育成のための英語スキルアップ研修プログラム

2024年10月19日（土）から実施した、女性研究リーダー育成のための英語スキルアップ研修プログラム（全5回）が12月14日（土）に終了しました。本研修プログラムは、アカデミックな場での即興的な英語コミュニケーション力を高めることを目的に開催。本学の研究者、大学院生13名が取組みました。

第2回～第4回では、ヒューマン・アカデミー株式会社のロン・リード氏を講師に迎えて開催。参加者は短時間で要点を的確に伝える技術を学び、自身の研究内容を簡潔に発表する練習を行いました。最終的には、「ポスター・プレゼンテーション」で、各自が作成したポスター（A3サイズ）を前に、少人数の聞き手に対して発表し、質問に答える形式で実践を重ねました。プレゼンテーションを複数回繰り返す中で、より自然でリラックスした雰囲気で発表できるようになり、着実にスキルを向上させる様子が見られました。

事前ガイダンスや事後の振り返りは、本学の田中真由美教授（英語グローバル学科）、クリストファー・エドルマン講師（英語グローバル学科）、アニータ・エイデン准教授（共通教育部）が担当。参加者の個別の英語習熟度を測りながら進む充実のプログラムとなりました。

参加者からは、さらに英語力を向上させたいという前向きな姿勢が感じられ、今回の研修で学んだことを国際学会や仕事で活用していきたいという声が聞かれました。

第2回大学院生交流会

第2回大学院生交流会を2025年3月1日（土）13：30～15：30に開催しました。大学院生15名、学部生3名、教職員6名が参加し、盛況のうちに閉会しました。今回の交流会では、ポスターやモニターを用いて研究の紹介や成果発表を行いました。司会進行は大学院生が担当し、全体的にリラックスした温かい雰囲気の中行われました。

8つの専攻（日本語日本文学、英語英米文学、教育学、臨床教育学、生活環境学、食物栄養学、建築学、薬学）の大学院生11名（修士課程7名、博士後期課程3名、博士課程1名）が発表を行いました。発表内容も多彩で、研究経験が豊富な博士学生から、研究を始めたばかりの修士課程1年生まで、幅広い層が参加しました。なかには、「私の大学院進学までの流れと今後の研究計画」というテーマで、自身の進学のきっかけについて語る発表もあり、多様な視点が交わる場となりました。

参加者からは、「普段接する機会のない分野の研究について知ることができ、良い刺激になった」という声が多く寄せられ、総合大学ならではの魅力を感じる機会となりました。また、「次回は自分も発表してみたい」との意見もあり、温かい雰囲気の中で発表が行われたことが、参加への意欲につながったようです。大学院生交流会は今後も定期的に開催予定です。

女性研究者交流会

「つなぐ・深める　共同研究への挑戦」をテーマに、女性研究者交流会を2024年12月18日（水）17：00～18：30、サイエンス・コモンズにて開催しました。本学教職員や大学院生13名が参加し、共同研究の楽しさや難しさ、共同研究を進めるポイントなどについて、語り合いました。

交流会では、2024年度架橋横断的重点共同研究・グローバル共同研究支援制度に採択された女性研究者に自身の共同研究について紹介していただき、参加者とのグループディスカッション形式で話題を深めていきました。

参加者からは「自分の研究に対して、今まで自分では気が付かなかった側面の分析方法を教えていただき、また評価をいただいたことにより、今後の励みとなりました」「女性研究者の仕事、子育て、研究などのキャリアプランの話は興味深かったです」「第一線で活躍されている方とお話ができて、今自身に何が必要なのかビジョンが持てました」などの声が寄せられました。女性研究者交流会は、次年度以降も定期的に開催する予定です。

プレコンセプションケア　セミナー

研究者の研究環境整備および学生や若手研究者がキャリアアップについて考えるきっかけになることを目的に、2024年10月23日（水）16:30～18:00、中央図書館2階グローバル・スタジオでプレコンセプションケア　セミナーを開催しました。本セミナーは兵庫県と連携して実施しました。

プレコンセプションケアのプレ（Pre）は「～の前の」、コンセプション（Conception）は「妊娠・受胎」という意味で「妊娠前からのケア」を意味します。若い男女が将来のライフプランを考えて日々の生活や健康と向き合うことや正しい知識を踏まえて将来の妊娠・出産を選択できるよう、健康づくりや命の大切さについて学ぶことをいいます。

セミナーでは、公益社団法人小さないのちのドア代表で、助産師でもある永原郁子氏から、妊娠・出産の選択を含めた将来設計のために、妊娠と出産、性知識など今から知っておきたい、考えておきたいことについて話を伺いました。

参加者からは「自分の将来につながる大切な話で、自分の人生を見つめる機会となりました」「プレコンセプションケアという言葉を知らなかったが、理解できました」などの声が寄せられました。

KAKEN塾＋研究相談会

新たな研究者支援として、外部の専門家に研究に関する個別相談ができる「KAKEN塾＋（プラス）研究相談会」を3回にわたり実施し、約20名が活用しました。

■開催日時・場所

2月26日(水)13:00～16:00 中央キャンパス
3月　6日(木)10:00～13:00 浜甲子園キャンパス
3月　8日(土) 9:30～12:30 中央キャンパス

■相談内容の抜粋

・研究テーマの選定や進め方に迷っている
・科研費の申請や助成金に関して不安がある
・研究計画の立て方や発表に自信がない
・研究を社会実装へつなげるにはどうしたらよいか
・研究手法の高度化に向けた取り組みについて

研究についての様々な疑問や悩みを、外部講師に相談できる機会を設けるのは初めての試みでした。講師とマンツーマンで1時間じっくり相談ができることが好評で、参加された先生方のアンケートには「年に数回このような相談会を設けてほしい」という声が多数ありました。

VOICE　各種支援採択者の声

女性研究リーダー研修

研究リーダーを担う女性研究者の教育研究能力の向上を図るため、国内外の大学・研究機関に派遣する制度です。2024年度に採択された2名の声を紹介します。

教育学科　准教授　吉井 美奈子

テーマ：米国で日本文化がどのように受け入れられ、共生してきたかについての研究
―家庭生活や異文化交流に着目して―
期　間：2024年8月25日～2025年8月24日

現在、米国ケンタッキー州にあるNorthern Kentucky Universityに娘を帯同して留学しています。ここでは、多文化共生や日本文化、日本語に興味を持つ背景、学習方法について研究しています。この地域では、日本や日本文化に好感を持ってくれる人が多いように思います。大学には日本文化クラブがあり、書道や折り紙等、日本文化の体験をしたり、留学を希望する学生に向けて、日本に留学経験のある学生が様々な「日本での生活」について紹介したりしています。私も参加していますが、学生ら自身が主体的に日本文化を知ろうとしているところが素晴らしいと思いました。娘を帯同して留学したことにより、私も娘の現地校の保護者ボランティアへの参加や、先生方との交流の場もあり、アメリカの学校教育についても学ぶ機会を多く持つことができました。これらの経験により、私の人間関係の幅も一層広がったと思います。

渡米して初めての場所での生活や、運転免許取得や車の購入等、苦労することも多いですが、いつも誰かが助けてくれ、縁に恵まれた滞在となっています。物価の高さと円安に苦労する日々ですが、米国生活を紹介するSNSを見て、色々な卒業生が連絡をくれるなど、発信することの大切さも感じました。今後も多くの方と繋がりながら、研究を進めていきたいと考えています。

社会福祉学科　准教授　大岡 由佳

テーマ：トラウマインフォームドなソーシャルワーク教育の検討
期　間：2025年1月13日～2025年3月13日

米国オレゴン州のポートランド州立大学ソーシャルワーク学部が持つ地域研究所に招聘研究員として滞在しています。州から委託を受けて「トラウマインフォームド・オレゴン（Trauma Informed Oregon）」を運営している機関です。トラウマインフォームドとは、トラウマに配慮した人に優しい社会づくりを目指すものであり、たとえば、人の多様性や公正、インクルージョンを掲げてその活動を展開しています。ちょうどアメリカでは、私の渡米直後に政権交代となり、たとえば移民やトランスジェンダーにも厳しい方針が打ち出され、大学研究機関が州を通じて政府から受けてきた資金援助の削減方針が打ち出されました。当研究所では緊急会議が持たれ、ソーシャルワーク学部教授会でも、学生への不利益や研究活動への危惧について議論されました。それぞれソーシャルワーカーらが社会正義を守るべく声を上げる姿を目の当たりにしています。

一方、渡米後の生活は大変充実しています。研究所では、花やウエルカムグッズ、歓迎メッセージが私の部屋に飾られ、スタッフ皆が部門の一員として迎え入れてくれました。その研究所を拠点に、関連組織訪問をしたり、研究所の研修・会議にスタッフとして参加しています。子どもを帯同して渡米をしたため、子どもを通して教育システムを垣間見る機会にもなっています。週末は小旅行に行ったり、美術館や博物館巡りをするなど、ワーク・ライフ・バランスが整った生活を送っています。

架橋横断的重点共同研究・グローバル共同研究支援

女性研究リーダーの育成を加速するため、国内外の教育研究機関及び企業等との分野間領域架橋につながる優れた共同研究を支援する制度です。2024年度に採択された9名の声を紹介します。

■グローバル共同研究

健康生命薬科学科
教 授 中瀬 朋夏

がん悪液質における硫化水素の役割解明と進行性乳がん治療の新展開

未だ治療法がない病気の薬の開発を目指して、未開拓領域に挑む卒業研究で配属された学生、学内の若手研究者、創薬化学研究者である夫、ナノ材料科学研究のトップランナーである国内・海外の女性研究者とともに、「難治性乳がん悪性化の機序解明と新治療戦略の創出」に取り組んでいます。多分野・異分野の研究者が結束し、心身に負担となる手術をせずに、薬だけで完ペキに治せる未来が実現するよう、乳がん研究を進めています。

■架橋横断的重点共同研究

日本語日本文学科
准教授 設樂 馨

多文化共生を担う人材育成に資する言語文化探究型プログラムの開発
—日本語・日本文学、第二言語習得、国語科指導を横断する問いと探究—

子ども食堂における食課題や難民支援。こうした社会課題に対し、言語文化がどう貢献できるのか。「多文化共生を担う人材育成に資する言語文化探究型プログラムの開発」として、日本語学、日本文学、第二言語習得、国語科指導といった複数の視点から問いを立てて探究する。そんな学生が育つことを目指し、共同研究を始めました。フィールドや専門の異なる研究者が情報交換することで、知らなかった学会や研究会の存在を知ったり、研究手法の穴を補いあったり、新しい視点を得たり、視野が広がりました。

教育学科
教 授 中村 明美

女子大学生のキャリア形成支援に用いるキャリア選択自己効力感尺度の開発

キャリア教育は、自分の役割を果たしながら自分らしい人生を過ごすために、学生が自らのキャリアを設計する能力を涵養することです。中でも自己効力感は不可欠な能力です。本研究は、女子大学生のキャリア選択自己効力感尺度を開発し、開発過程で現状と課題を分析します。さらにキャリア選択自己効力感を高める支援策の考案、実践を目指しています。本学のキャリアセンターの教職員全体で取り組むことがこの研究の特徴です。

社会福祉学科
講 師 野上 恵美

外国にルーツを持つ児童・生徒の学習意欲に関する社会福祉学的研究

外国ルーツを持つ児童・生徒が、学習意欲を高めるためにはどうしたらよいか。その問いを探求するために、「外国にルーツを持つ児童・生徒の学習意欲に関する社会福祉学的研究」というテーマで共同研究をはじめました。共同研究者は、スクールソーシャルワーク、多文化ソーシャルワーク、母語・継承語教育と分野は異なりますが、「若者の力を伸ばす仕組みづくり」という目的を掲げ、それぞれの知見を持ち寄って議論を重ねました。共同研究を通して、分野横断的に研究することの魅力や興味深さを実感できました。

食創造科学科
教 授 北村 真理

保育現場における園児の咀嚼機能向上を目指した食育プログラムの構築

幼児の咀嚼能力育成のための食育プログラムを考案し、実施しています。武庫川女子大学附属保育園、新潟大学大学院医歯学総合研究科包括歯科補綴学分野との共同研究として、異分野の研究者、実践者が相互理解の下、それぞれの役割を理解し、専門性を発揮することで、同じ目標に向かって取り組んでいます。単独では今まで見えてこなかった多くの発見があり、研究に深みが増していることを実感しています。今後も取り組みを続けていきたいと思っています。

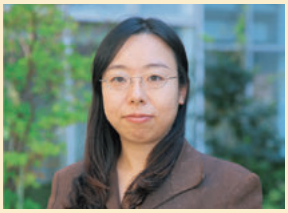
応用音楽学科
教 授 一ノ瀬 智子

多分野介入による認知症予防教室における音楽活動の効果に関する検討
—認知機能と呼吸機能の関連に着目して—

本学の健康科学総合研究所・栄養科学部門の認知症予防研究チームが実施する多面的介入型の認知症予防教室において、応用音楽学科の教員、助手、および音楽療法を学ぶ学生が音楽活動を通じた介入を行っています。今年からは鍵盤ハーモニカを導入し、認知機能や肺機能への有効性について検討しています。今後は他領域の研究員の先生方と分析結果を共有し、新たな知見の獲得を目指しながら研究を進めていきたいと思います。

薬学科
教 授 吉田 都

女性に優しい！地球に優しい！武庫女発フェムテック開発；
抗菌消臭快適サニタリーシステムの提案



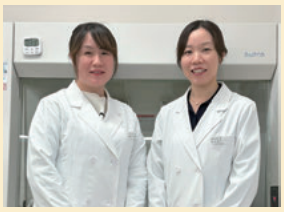
私は、武庫川女子大学で出会った方々のサポートを受けることにより、子育てと仕事を何とか両立できているという実体験に基づき、女性が一生を描ききる女性力を発揮するために、女性自身とその家族の健康を守る研究がしたいと考えております。この研究を遂行するためには、世代や学部の垣根を超えた連携が必要となります。「吉田先生のアイデアは面白い！一緒に研究しましょう！」と言って下さった林紗希助手、桒原晶子教授、吉井美奈子准教授、澤渡千枝教授とともに、一生を描ききる女性をサポートする面白いモノの開発に繋げていきたいです。

架橋横断的重点共同研究・グローバル共同研究支援

■架橋横断的重点共同研究

薬学科
准教授　吉川　紀子

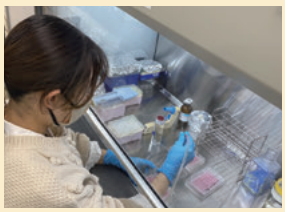
血小板をターゲットとしたがん転移治療法の開発



私は、血小板とがん細胞の相互作用を標とした新たながん転移抑制療法の開発に取り組んでいます。現在、本学の食物栄養学科の土生先生と共同研究を進めており、本研究に対して新たな視点から多くの貴重なご意見をいただいています。この共同研究を通じて、従来とは異なる実験手法やアプローチを導入する機会を得ることができています。異分野の知見を取り入れることで、より多角的な視点から「がん転移抑制」に取り組むことができ、大きな意義を感じています。

健康生命薬科学科
准教授　仁木　洋子

抗炎症剤内包紫外光性リポソームの経皮キャリア



奈良高等専門学校の研究室と光応答性リポソームを研究しています。リポソームとは細胞膜と同成分でできた小さな袋です。内包物の放出を光（紫外線）で制御し、皮膚への効果的な薬剤到達手段の開発を目指しています。共同研究では互いの得意分野をいかして研究を発展させることができます。自分では思いもつかなかったアイディアが出ることもあり、共同研究ならではの楽しさを感じながら進めています。共同研究先の学生が研究室に来て実験もしています。

大学院学生フェローシップ制度

次世代の女性リーダーを担う若手女性研究者を育成するための制度です。本学の大学院博士後期課程または博士課程に在籍する女子学生に、1人あたり年額60万円を給付しています。2024年度に採択された5名の声を紹介します。

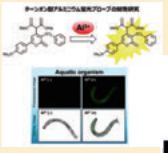
文学研究科 英語英米文学専攻 博士後期課程 1年　管　楓花

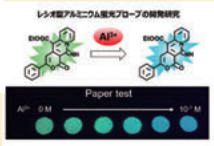
フェローシップ制度により、研究の選択肢が広がりました。フェローシップ制度を受ける前は博士課程での調査は国内のみで考えていましたが、フェローシップ制度の給付が決まり、今年度にアメリカで調査を実施することが可能となりました。また、国内の学会だけでなく、海外での学会活動にも積極的に参加できるようにもなりました。今年の7月に香港で開催されるAsia TEFLへ参加を予定しております。研究者として必要な能力や経験をこの給付金によって得る機会を非常にたくさん掴むことができるようになったと実感しています。フェローシップ制度によって、自身のやりたい研究を行うことができています。

建築学研究科 建築学専攻 博士後期課程 3年　池澤　萌子

建築学研究科博士後期課程で「サン・カルロ・アッレ・クワトロ・フォンターネ聖堂の内部空間におけるモールディングと陰影との関係に関する研究」を行っています。研究対象はイタリアのローマに17世紀に建てられた聖堂で、白色を基調とした内部空間には「奥行き」が感じられます。このような空間体験には、建築的細部による「陰影」が影響していると考え、モールディングと陰影との関係を明らかにすることを目的としました。いただいた給付金を活用し、研究対象の一部の原寸大模型を制作しました。模型を用いて陰影の検証を行い、形態に対する理解を深めることができました。フェローシップ制度を受けたことで、研究活動の幅が広がったと感じます。

薬学研究科 薬学専攻 博士課程 4年　奥田　史子





この度は採択いただき、誠にありがとうございました。本制度に採択されたおかげで、経済的な不安を抱えることなく研究に専念できたことに感謝しております。また、本制度をきっかけに、女性研究リーダー育成推進センターが開催するイベントの情報を知ることができ、この1年で様々なプログラムに参加し、将来に役立つ貴重な学びを得ることができました。これまでの大学院生活では、自分の学部のキャンパスでしか過ごしておらず、総合大学の強みを十分に活かせていないと感じていましたが、本制度を通じて他学部の先生や学生との交流が増え、大変嬉しく思っています。本制度に興味のある大学院生には、ぜひ活用していただき、有意義な学生生活を送っていただきたいと願っております。

臨床教育学研究科 臨床教育学専攻 博士後期課程　1年　岩﨑　德子

フェローシップ制度に採択いただき、ありがとうございます。わたしは、トランスジェンダー学生のキャリア形成について研究しています。日本型雇用システムや就活ルールの変更など、性的マイノリティに限らず学生の多くが意思決定に悩むような社会的な動きがあるなか、特にトランスジェンダー学生のキャリア形成上のニーズや困難に焦点を当て研究を進めています。多様な性のあり方を持つ方への支援に関わりながらこれまで細々と研究を続け、ようやく博士課程に進学できたので、フェローシップに選んでいただけたことは大きな励みになりました。研究としてやるべきこと・できることに悩むこともありますが、葛藤から逃げずに2年目も頑張りたいと思います。

臨床教育学研究科 臨床教育学専攻 博士後期課程　1年　大山　紀子

私はフェローシップ制度による給付金によって、研究の幅を広げる事が出来ました。研究の背景には、大学生アスリートの総合的理解がアスリート育成に意味があります。総合的理解の中には文化による違いも含まれていることから、本給付金を活用して、海外の大学生アスリートの調査も実施しようと考えています。日本の大学生アスリートとの比較が新しいアスリート教育のヒントを与えてくれるものと考えています。また、日本人アスリートの早期成熟に伴う競技離れが報告されており、発達段階に応じたアスリート育成方法の検討が求められていますが、海外の発育発達に応じたアスリート育成モデルについても知見が得られるものと考えています。支援をいただいたことを今後の学につないで、より良い研究者になれるよう努力します。

キャリア・カウンセリング

女性研究者のキャリアパスを支援するために、先輩研究者であるカウンセラーに仕事や進路について相談できる場を設けています。2024年度後期からは、Zoomでのカウンセリングも可能となりました。

相 談 日：火曜日・木曜日
相談時間：1回45分を目安に
場　　所：中央キャンパス 研究所棟(I) 1階・Zoom
対 象 者：本学の女性研究者・大学院生

担当カウンセラー

上田 和子 武庫川女子大学名誉教授／博士(文学)
＊2024年度より女性研究リーダー育成推進センターのカウンセラーとして勤務

上田カウンセラーの専門分野は日本語教育学・日本語教師教育。国内外での大学教員、国際機関専門員など豊富な経験を活かしカウンセリングにあたります。どなたでも研究の悩みや通学、キャリアについて幅広く相談できます。

研究広報

女性研究者の研究力向上をめざして、共同研究や研究活動を促進するために、研究内容を分かりやすく発信する広報活動を進めています。

女子総合大学の特色を活かして、様々な分野で活躍する研究者を取材し、その内容を研究ポータルサイトやSNSを通じて発信しています。時代のニーズにあった興味深い内容になっています。是非ご覧ください。

これからも様々な分野の研究者を取りあげて情報発信し、研究活動の活性化につなげていきます。

「持続可能な食生活の促進に向けて」
食創造科学科 本田智巳 講師

「日本固有種の植物の力を化粧品に」
健康生命薬科学科 仁木洋子 准教授

【武庫川女子大学 研究ポータル】
https://research.mukogawa-u.ac.jp/

ライフイベントと研究活動の両立支援

本学の男女共同参画推進課では、学内保育ルーム「ラビークラブ」の見学会や女性研究者のキャリア形成支援、教職員間の交流・情報交換を目的としたランチタイムミーティングを定期的に開催しています。

男女共同参画推進課のホームページをぜひご覧ください。

【武庫川学院 男女共同参画推進課】
https://www.mukogawa-u.ac.jp/~gsankaku/

国際学会発表支援制度

次世代の女性リーダーを担う若手女性研究者の育成を加速するため、国際学会等における研究発表を目的に渡航する専任及び嘱託教育職員の海外渡航費及び学会参加費等を支援するための新しい研究支援制度を構築しています。2025年4月より運用予定です。

女性管理職インタビュー動画配信

本学で管理職を務める女性研究者5名のインタビュー動画を制作いたしました。下記の事業紹介のホームページ、武庫川女子大学サイエンス・コモンズのホームページからご覧いただけます。本学の女性研究リーダーの姿を発信しています。どうぞご視聴ください。

2025年度は…

女性研究リーダー育成推進センターは新体制となります！

センター長 ▶高橋 享子 教授（武庫川女子大学 学長）
副センター長 ▶中尾 賀要子 教授（女性活躍総合研究所 所長）

本補助事業に採択いただき2025年度で3年目の年を迎えます。これまで以上に、「武庫川女子大学 サイエンス・コモンズ」を通じて、国内外の協定大学や企業の研究者が参画する共同研究を増やしていきたいと考えています。本学の活動に興味を持っていただける方は、ぜひお声がけください。

編集後記

おかげさまで2024年度を無事終了することができました。昨年の今ごろ私たちは出会いお互いの人となりも分からないままスタートしましたが、なかなかよいチームワークだと自画自賛気味です。「大事な2年目、まずは実績を！」とブルドーザーのように進んだ結果、臨機応変に対応する能力に磨きがかかりました。多彩な女性リーダーたちとの出会いも自身の将来の選択肢は多様であることを裏付けてくれています。もしかするとこの補助金事業で一番得をしているのは私たちかもしれません。(N.S)

「武庫川女子大学 サイエンス・コモンズ」をご利用希望の場合は、下記の当センターまでご連絡ください！

武庫川女子大学　女性研究リーダー育成推進センター
〒663-8558 兵庫県西宮市池開町6-46
TEL (0798)45-3506　FAX (0798)45-3686
E-mail cewl@mukogawa-u.ac.jp

事業紹介HP

武庫川女子大学
サイエンス・コモンズHP